

■日時 平成28年8月15日(月) ■天候 曇り

愛知県立愛知工業高校 対 天理高校

■球場 大田スタジアム 第4試合 2回戦

■試合時間 2時間13分 ■備考 7回コールド

■審判 球審:栗村 塁審:松山 濱野 清水

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9							計	安	失
愛知工業	東海・愛知	0	0	0	0	1	2	0									3	2	4
天理	近畿・奈良	1	1	1	1	5	1	×									10	7	5

愛知工業																			
	ポジション				氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1	捕				伊藤 将宏	4	0	0	0	投ゴ		三振		二ゴ					右飛
2	左			投	横井 翼	3	1	0	0	遊失		二飛						死球	三振
3	遊	投	一		吉井 巧	3	1	0	0	三振			一邪					四球	三振
4	一		投	左	伊藤 涼太	3	0	0	0	二ゴ				一失				捕邪	
5	投	遊		三	前田 紅麗	3	0	0	0		三振			捕邪					三失
6	三			右	安藤 寛大	3	0	1	0		三振			左2				一邪	
7	二			遊	松山 直紀	1	0	0	1		四球			投ゴ				四球	
8	右				須藤 秀俊	1	0	0	0		三振								
8			打		新田 亮汰	1	0	0	0					一ゴ					
8			走		糸原 竜輝	0	1	0	0										
8				二	可児 怜美	0	0	0	1									死球	
9	中				熊澤 祐次	3	0	1	0			三ゴ		投安				遊失	
合計						25	3	2	2	残塁:6 併殺:1									

備考

■バッテリー

投手
前田 紅麗
吉井 巧
伊藤 涼太
横井 翼

捕手
伊藤 将宏

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
前田 紅麗	2	9	1	1	1	1
吉井 巧	0 2/3	6	1	1	2	0
伊藤 涼太	1 1/3	10	4	0	1	4
横井 翼	2	10	1	3	4	2

天理																			
	ポジション				氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1	右				峪口 宥人	2	1	1	0	四球		三振	三安						
1	打				山下 龍一朗	1	0	1	1					中2					
1		投	右		浅井 幸喜	0	0	0	0					四球					
2	遊				西井 太旨	2	1	0	1	投犠		中飛	遊ゴ						
2	打				中林 良太	0	0	0	0					遊ゴ					
2		遊			岡田 民生	0	0	0	0										
3	投	右	投		森口 晴信	3	1	1	2	中犠		右安	一ゴ						
4	捕				三好 完太	3	2	1	2	右飛		三失	中本		四球				
5	左				森口 信宏	2	1	1	0		三ゴ	四球	左安						
5		左			丸田 理貴	1	0	0	0									三振	
6	一				刑部 雅史	2	1	1	0		遊安	四球	一失		四球				
7	二				畦 越 純	4	0	0	0		三振	投ゴ	一ゴ		三振				
8	三				石井 俊	3	2	1	0	投失		遊安	死球	三邪					
9	中				大江 治義	2	1	0	0	三邪		四球	三振						
合計						25	10	7	6	残塁:7 併殺:0									

備考

■バッテリー

投手
森口 晴信
浅井 幸喜
森口 晴信

捕手
三好 完太

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
森口 晴信	5 2/3	26	2	5	5	0
浅井 幸喜	1/3	0	0	0	0	0
森口 晴信	1	4	0	0	2	0

■戦評

2回戦、大田球場の第4試合は、東海地区代表・愛知県立愛知工業高等学校対近畿地区代表・天理高校との対戦となった。1回裏、大会10連覇を狙う天理高校は、1番峪口が四球で出塁後、二盗に成功。2番西井の犠打により1死3塁として3番森口が中堅犠飛を放ち1点を先制する。続く2回裏、天理は6番刑部が遊撃内野安打で出塁し、その後二盗に成功、そして2死後8番石井の投ゴロが一塁への低投を誘い1点を追加した。3回裏も2死後右前打で出塁した3番森口晴信が相手側守備の乱れによって1点を追加した。そして4回裏には8番石井が遊撃内野安打、9番大江が四球、1番峪口が三塁内野安打と無死満塁の好機を作り、2番西井の二塁ゴロ間に1点、3番森口晴信の一塁ゴロ間に1点を追加し、2死3塁としたところで4番三好が中堅越えランニングホームランを放ち2点を追加する。さらに相手側守備の乱れを誘って1点を追加して、この回合計5点を挙げて愛知工業を0対8と突き放した。8点を追う愛知工業は5回表、6番安藤が左翼手越二塁打で出塁するも、天理投手の好守備によって三塁犠死となってしまった。しかし、その後2死1・3塁と再び好機を作り今度は天理守備陣のミス誘い、代走の糸原が生還して1点を返す。さらに6回表、天理二番手投手から死球等で2死満塁としたところで7番松山が四球を選び、8番可児の死球によって2点を返すが追撃もここまで、大会特別規定により天理高校が10対3、7回コールドで勝利した。